

臨時奉幣祭

日付：2025年（10年に1回）

臨時奉幣祭は、天皇から特別に派遣された使者である勅使が宇佐神宮へお参りする際に宇佐神宮で開催される珍しい宗教行事です。宇佐神宮は、勅使を受け入れる資格のある日本でわずか17の神社の1つであり、その勅使は祀られた神々への天皇陛下のお祈りを読み、天皇陛下からの供物をお供えします。

最初の宇佐神宮への勅使のお参りは、1300年以上前の720年に行われ、何世紀にもわたって、このような使者は天皇の裁量で何度も宇佐神宮を訪れました。天皇の権力が衰退していた14世紀半ばから18世紀半ばにかけてこの慣習は中断されましたが、1744年に再開され、60年ごとに行われました。政府が1925年に神社の資格を改定した際、10年に1回、宇佐神宮に勅使を派遣することが決定されました。

宇佐神宮に向かう途中の天皇の勅使を見ることを望んで、この祭りの際はいつも無数の人々が宇佐に集まります。旅する芸術家、蓑虫山人（1836-1900）の絵日記には、1864年の勅使行列を描いています。一つの記録には、勅使街道に沿って神社に向かって伸びる壮大な行列を描き、他の記録には、勅使が使用した後に、神社の入口近くの手水舎で自らをお清めしようと競う庶民を描いています。

宇佐神宮では、勅使の訪問中に多くの儀式や活動が行われます。宇佐に着いてから、勅使が勅使街道の一部を通り抜け、10年に1度この祭りの時に開通する屋根付きの「呉橋」を通って神社の境内に入ります。その日の夜に神社の氏子の団体が提灯を手にもって呉橋を通って宇佐神宮へ入り、勅使に敬意を払います。臨時奉幣祭は翌日に行われ、その時に勅使は上宮（上の社）で天皇陛下からの神々への供物をお供えし、そして託された祭文を声に出して読みます。

直近の臨時奉幣祭は2015年に発生し、宇佐神宮への勅使の参拝は257回目となりました。次の勅使の参拝は2025年に予定されています。